

市町村における生ごみ 分別収集の実施状況

～九州地域における地域循環圏調査
アンケートから(抜粋)～

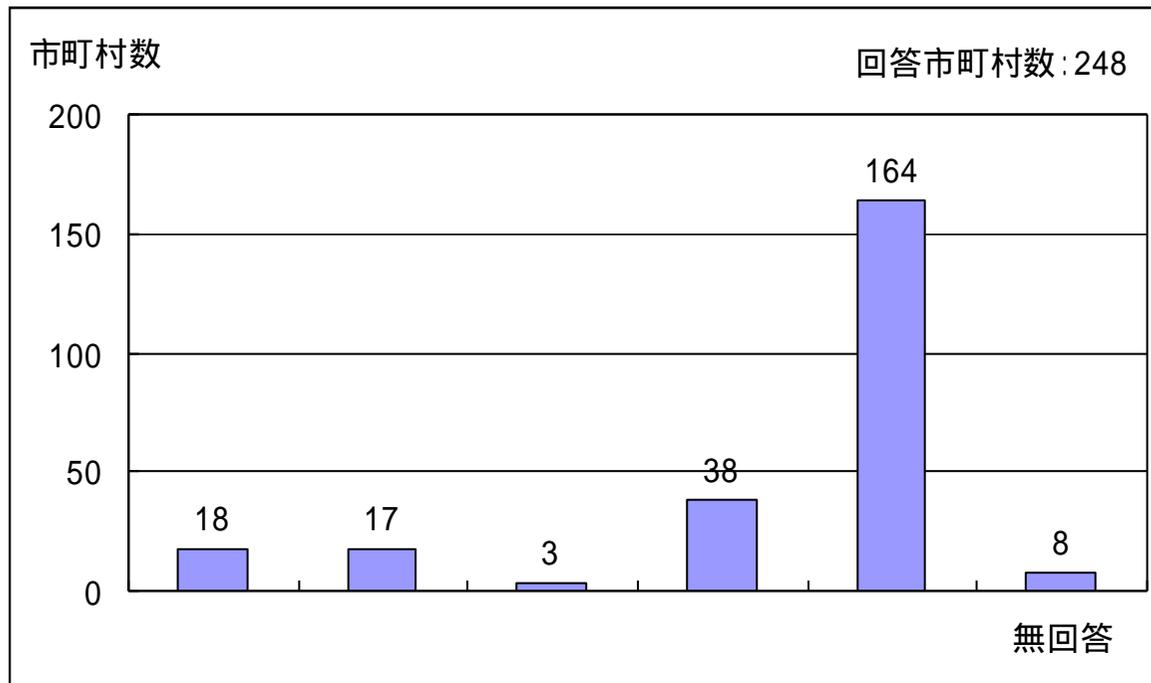
アンケート調査の概要

- ・調査対象：九州管内の全市町村 288市町村
(平成21年8月現在)
- ・アンケートの回収状況

区分	発送数	回答数	回収率
市町村	288	248	86%
福岡	66	55	83%
佐賀	20	17	85%
長崎	23	22	96%
熊本	47	40	85%
大分	18	17	94%
宮崎	28	27	96%
鹿児島	45	44	98%
沖縄	41	26	63%

1. 家庭系生ごみ分別収集の実施・検討状況

	市町村数								
	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	
全域で実施している。	18	1	0	2	4	1	2	7	1
一部区域で実施している。	17	0	0	3	4	0	4	4	2
今後、実施する予定がある。	3	1	1	0	0	0	0	0	1
検討中、今後検討する予定。	38	9	3	1	9	3	2	8	3
特に検討する予定はない。	164	44	13	14	20	13	18	24	18



全域で実施している市町村での具体的な内容

具体的な内容	市町村所在地
・ 10戸から20戸程度で収集場所を定め、週2回バケツ設置方式により収集。	福岡
・ 生ごみ収集専用の袋で回収している。	長崎
・ 指定容器(袋)にて毎週2～3回ステーション回収により実施。	長崎
・ ステーション方式。	熊本
・ 全世帯、生ごみ生分解性専用袋で出している。	熊本
・ 生ごみ専用袋(生分解性プラスチック製)を使用し、週2回収集している。	熊本
・ 週2回、燃えるごみと同日に収集している。	熊本
・ 透明又は半透明のビニール袋に入れ排出。週2回収集。	大分
・ 町の指定袋で、軒先及びステーションによる収集を実施している。	宮崎
・ 生ごみの堆肥化事業は、平成17年度から実施。各家庭へ生ごみ保管用の水切りバケツを無料配布し、週2回地域のステーションに出してもらう。ステーションには排出用のバケツを常備してある。	宮崎
・ ステーション(183箇所)回収で生ごみ専用バケツを設置している。	鹿児島
・ 委託業者が回収し、堆肥センターへ持込み堆肥化。	鹿児島
・ 各地区に委託し、週2回生ごみ等の収集を行っている。生ごみについては、生ごみ処理機で処理し堆肥化している。	鹿児島
・ 週2回指定生ごみ袋へ名前を書いて出す。	鹿児島
・ 堆肥化。	鹿児島
・ 生ごみの分別収集を各自治会のごみステーションにおいて実施(平成16年度より)。	鹿児島
・ 各集落の収集所にて、毎週2～3回収集している。	鹿児島
・ 生ごみは、バケツでの回収を行っている。	沖縄

一部区域で実施している市町村での具体的な内容

具体的な内容	市町村所在地
・各地区の一部商店から、し尿と混合して有機肥料を作るために生ごみを回収している。	長崎
・一部の地域で、抗酸化バケツによる生ごみ減量対策モデル事業を実施する。	長崎
・市内の一部地区で、生ごみ専用袋にて収集している。	長崎
・本市では、ステーション方式での収集を行っており、収集日前に各ステーションに生ごみ収集用のバケツを配置している。収集後は、本市の施設にて液肥化、メタン発酵を行っている。	熊本
・平成21年6月より市全体人口の1割の地区をモデル地域に選定し分別収集事業を実施中。生ごみ専用袋を作成し収集後は熊本市にある堆肥化施設へ運搬。製造された堆肥の一部を協力いただいた地域住民へ還元している。	熊本
・一部の地域では可燃ごみとして収集している。	熊本
・山間部を除き、指定袋による分別収集を実施。	熊本
・コンポストなどで自家処理している地域を除き、ほぼ全域で実施している。	宮崎
・公共施設のみ(給食センター、特老、病院)	宮崎
・事業系生ごみのみ	宮崎
・一部の町内会及び市営、県営等の公営住宅でモデル的に実施している。	鹿児島
・本年7月からモデル地区(約540世帯)において週2回収、民間堆肥化施設に搬入し堆肥化。次年度以降、モデル地区を増やしながら本格導入を目指している。	鹿児島
・市町村合併前の旧町の地域のみで生ごみの分別収集を行っている。	鹿児島
・一部地域で生ごみ処理機で堆肥化を実施している。処理能力1日あたり最大100kg。	鹿児島
・平成20年6月からモデル地区にて分別収集を開始、現在は町立学校給食調理場の残渣と230世帯の家庭から生ごみを収集している。	沖縄
・市街地を中心に約6,000世帯を対象にモデル事業を実施。市の資源リサイクルセンターへ搬入し、堆肥化。	沖縄

今後、実施する予定がある市町村での具体的な内容

具体的な内容	市町村所在地
・新ごみ処理施設の建設、稼動開始に合わせ、生ごみ分別収集を開始予定。	福岡
・YM菌による堆肥化。	佐賀
・生ごみの堆肥化に向けて準備中。	沖縄

検討中、今後検討する予定の市町村での具体的な内容

(その1)

具体的な内容	市町村所在地
・ 事務組合及び関係市町で生ごみ処理プロジェクトを立ち上げ検討中。	福岡
・ バイオエネルギー化。	福岡
・ 生ごみの分別収集を行い堆肥化する等、生ごみの減量化、処理コストの削減方法を今後検討していく。	福岡
・ 実施方法を検討中だが、処理施設、運搬方法、堆肥化した場合の利用先等問題がクリアできないため、模索中。	福岡
・ 新ごみ処理施設に併せ、生ごみ分別の実施を検討中であり、分別収集方式についても検討している。	福岡
・ 特に検討は行っていないが、必要に応じて研究している。	福岡
・ 分別収集した「生ごみ」を破碎し、町で発酵処理された「し尿堆肥」を混ぜ合わせ堆肥化する。	福岡
・ 家庭ごみの減量、リサイクルを促進していくと、最終的に残るものは生ごみとなり、今後、検討に着手する予定。	福岡
・ 今後、必要性、施設規模について検討する予定。	佐賀
・ 先進地などを参考にして、生ごみを分別収集し堆肥化する技術・施設などを模索中である。	佐賀
・ 当市で実施した可燃ごみの組成調査によると可燃ごみ中の約35～40%を生ごみが占めている。この結果を踏まえ今後のごみ減量に取り組む上で、生ごみの分別収集、資源化は検討していかなければならない課題として認識している段階で、具体案については今後の課題である。	佐賀
・ 可燃ごみの減量を目的に堆肥化、液肥化を検討中。	長崎

検討中、今後検討する予定の市町村での具体的な内容

(その2)

具体的な内容	市町村所在地
・ 現在、広域で実施しており、当町で実施する場合の調整を行う。	熊本
・ 現在、可燃ごみとして収集し、RDF(固形燃料)化している。生ごみだけの収集は、一部事務組合と協議の中で今後検討する予定。	熊本
・ 容器回収し、堆肥化を検討予定。	熊本
・ 容器回収。	熊本
・ 今後検討する予定。	熊本
・ 家庭からの排出方法、収集の方法、処理方式、処理施設の問題など、全体の流れについて検討を行う必要がある。(以前生ごみを収集する方式の検討を行った結果、再検討が必要であると判断した)	熊本
・ 期間、地域を限定し、モデル的に分別収集(ステーション回収)後、民間施設で堆肥化。	熊本
・ 平成25年～ 生ごみを分別収集して、堆肥化等の調査・研究を行う。	大分
・ 広域ごみ処理場の建設を現在計画中。施設での生ごみの資源化が可能となれば分別収集について検討実施せざるを得ない。	大分
・ 町バイオマスタウン構想で検討中。	大分

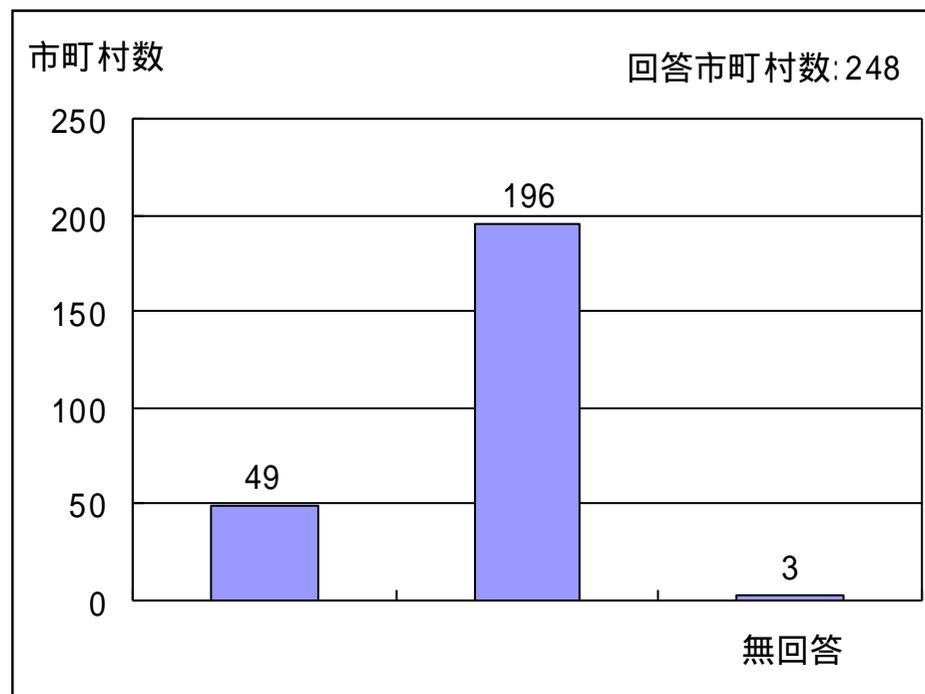
検討中、今後検討する予定の市町村での具体的な内容

(その3)

具体的な内容	市町村所在地
・ 検討中であるが具体的な内容まで至っていない。	宮崎
・ バイオマスタウン構想で検討中。	宮崎
・ 検討中であるので、具体的な内容は未定。	鹿児島
・ 現在、堆肥センターの建設を計画しており、建設後に生ごみの分別収集を実施する予定。	鹿児島
・ 収集方法など既に取り組んでいる先進地を参考に、本町に合致する体制を今後検討する予定。	鹿児島
・ 現在は家庭用生ごみ処理機購入費助成による生ごみの減量化をすすめているが、今後はバイオマス構想により焼却から堆肥化等へと施策方向転換予定である。	鹿児島
・ 平成21年度中にバイオマスタウン構想を策定。	鹿児島
・ ごみ減量化を効果的に行うための手段の一つとして生ごみを分別収集し、資源化(堆肥等)することを検討していきたい。	鹿児島
・ 島嶼地域での分別収集を検討。	鹿児島
・ 可燃ごみとして収集しているが、今後、堆肥化等再生利用を検討。	鹿児島
・ ごみ減量化を図るため有効。分別の方法あるいは収集運搬、運搬車などの施設、最終処分場などについて検討(論議中)。	沖縄
・ 近隣市町村の状況把握及びランニングコストの調査等	沖縄
・ 飼料化、肥料化の検討。収集方法の検討。	沖縄

2. 市町村による生ごみダンボールコンポストの普及啓発状況

	市町村数								
	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	
普及啓発を行っている。	49	25	1	1	11	3	1	4	3
特に行っていない。	196	29	16	20	29	14	26	40	22



ダンボールコンポスト普及啓発の具体的な活動内容

(その1)

普及啓発の具体的な活動内容	市町村所在地
・ダンボールコンポストの半額助成、住民団体による講習会の開催。	福岡
・広報等で周知する。	福岡
・説明会の実施、広報やイベントにより啓発。	福岡
・広報、ホームページ、出前講座、購入助成の実施。	福岡
・市民向け説明会。	福岡
・住民50名をモニターとして、生ごみの堆肥化を検証し、広く住民に普及啓発を行う。	福岡
・ごみ減量推進課:マニュアル作成。 環境保全課:市民向け説明会の出席者に基材を配布。	福岡
・市民向け説明会、マニュアル作成、基材販売。	福岡
・基材を販売。講習会を実施。	福岡
・ごみ減量リサイクルアドバイザーに講演などを行ってもらい、普及啓発している。	福岡
・今年度、50名の方にモニターになってもらっている。今後、ダンボールコンポストの補助金交付について検討する。	福岡
・市広報誌に市民団体が開催する講座を掲載。 市ひとづくりまちづくり交付金による団体育成及び活動支援。	福岡
・市民向け講習会(H20・5回、H21・6回予定)、購入費補助(1/2補助、上限1,000円)、小学校へ教材として配布	福岡
・基材購入に対し個別助成。	福岡
・マニュアル作成、公的機関及び市民向け説明会。	福岡
・依頼があった場合に市民向けとして説明会や学習会を実施している。	福岡
・講習会開催及び基材配布(市民団体による)マニュアル作成。	福岡
・講習会を年2回開催。	福岡

ダンボールコンポスト普及啓発の具体的な活動内容

(その2)

普及啓発の具体的な活動内容	市町村所在地
・ 広報誌や分別ガイドブックに掲載。	福岡
・ 環境ボランティア団体の協力により市民向け説明会を実施。市環境衛生協議会を通じて補助金交付。基材等は窓口配布。	福岡
・ 広報誌での啓発。	福岡
・ 購入費補助制度を広報紙に掲載している。	福岡
・ 生ごみ堆肥化市民啓発事業(講座開催)。講習会に講師を派遣してコンポストセットを配付(外郭団体で実施)。	福岡
・ 市民向け講座(使い方、実施)、補助金制度	福岡
・ 市民向け研修会の実施。	佐賀
・ 市民向け説明会。	長崎
・ 市民向け説明会、マニュアル作成、モニターとしての資料配付。	熊本
・ 住民向け説明会及び制作指導、婦人会会員向け説明会及び制作指導、広報による啓発。	熊本
・ マニュアル配布、イベント時PR、製作体験会(予定)。	熊本
・ ごみ分別の説明会時にコンポスト作成チラシを配布。	熊本
・ 毎月発行している環境関係の広報チラシに掲載。	熊本
・ 300世帯に基材配布モニター報告。	熊本
・ 環境保全活動団体と市が協力して普及している。説明会で基材を配布。	熊本
・ 民間団体と共催により市民向け講習会を開催している。	熊本
・ 市民向けの講習会。	熊本
・ 出前講座(市民向け説明会)、モニター事業、マニュアル作成、基材配布、アンケート実施。	熊本

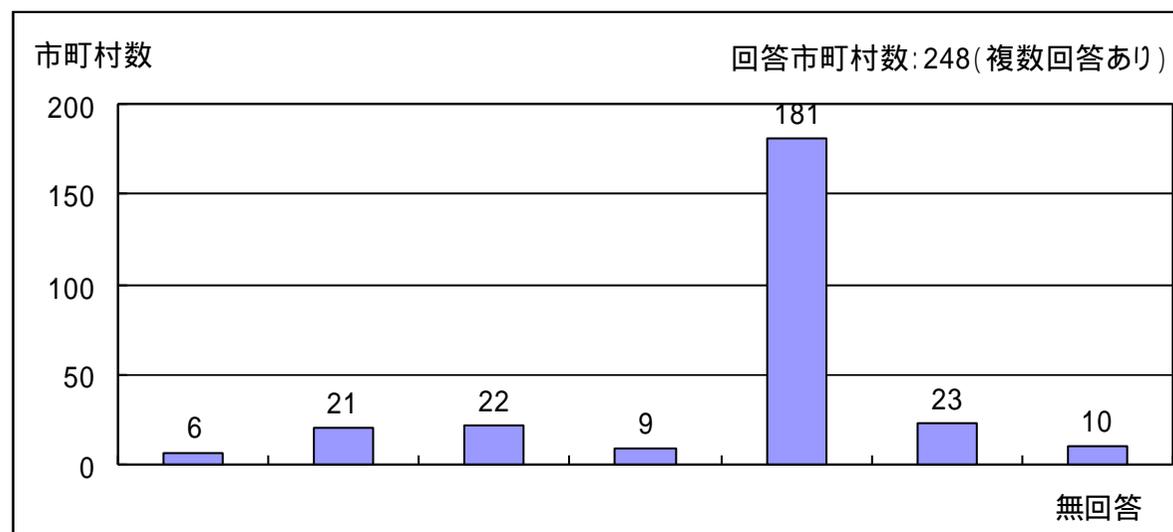
ダンボールコンポスト普及啓発の具体的な活動内容

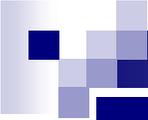
(その3)

普及啓発の具体的な活動内容	市町村所在地
・ダンボールを使用した生ごみ堆肥化の方法を市のHPで紹介したり、年に数回、講習会(説明会)を実施している。	熊本
・市報掲載。個人、団体が講習会開催時に資材を提供。	大分
・市民向け説明会、マニュアル作成、ダンボールコンポストセット支給。	大分
・H20年度 実施セミナー開催。 H21年度 ケーブルテレビ放映。	大分
・昨年、県内でダンボールコンポストネットワークが設立(3支部)され、ネットワークが主体となって講習会、基材配布などの啓発活動を行っている。県南支部では本年度は小中学校4校、講習会3回(初心者講座、フォローアップ講座で1セット)を予定している。行政はネットワークのサポートなどを行っている。	宮崎
・町広報誌への掲載。	鹿児島
・環境イベントにおいて方法等を紹介。今年度中に、市ホームページ、広報誌、イベント等を活用して更なる普及啓発を行う予定。	鹿児島
・市の環境施設(リサイクル工房)において、ダンボールコンポスト作成講座を開催。21年2月から生ごみ処理機器設置費補助金の交付対象機器にダンボールコンポストを追加。	鹿児島
・町広報誌に掲載。	鹿児島
・広報等で周知。	沖縄
・今年度、女性会による講習会に町のエコセンター職員が出向いて実施。	沖縄
・広報や市ホームページに掲載、自治会長会説明会、各種団体の要請による説明会。	沖縄

3. 事業系一般廃棄物の多量排出事業者に対する指導や普及啓発の実施状況

	市町村数(複数回答)								
	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	
立入検査を行っている。	6	1	0	1	2	0	1	1	0
事業所に出向いて指導を行っている。	21	10	3	3	2	0	1	0	2
定期的に、減量化や排出量等の計画書(報告書)の提出を義務付けしている。	22	10	2	2	1	3	1	2	1
減量やリサイクルに関する説明会やセミナーを行っている。	9	2	2	1	1	0	1	2	0
特に行っていない。	181	35	9	17	34	11	21	34	20
その他	23	4	3	1	2	2	3	6	2

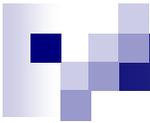




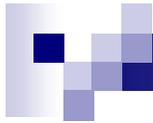
・自治体の生ごみ対策について

本研究会への参加応募の際に寄せられた、生ごみ対策についての疑問点とその対応例(先行自治体へのヒアリング結果)

	疑問点	対応例(先行自治体へのヒアリング結果)
収集関連	<p>生ごみだけの収集を有料袋で行っている市町村があるか？又、これを行った場合、どんな問題が生じるのか</p>	<p>バケツ収集。バケツの管理は各自治会で行っている。市が3000個購入。2000円/個程度で耐用年数5年。 指定袋収集(生分解性プラスチック) 家庭の半透明袋やレジ袋で排出(無料)</p>
	<p>生ごみが可燃ごみ袋に入った場合は違反ごみとして収集しないのかどうか。また、収集しなかった場合の問題点</p>	<p>指定袋に名前が入っており、自治会がチェックしやり直しをさせている。だいたい、自治会の人分別し直しているが、ほとんど違反はない。 袋にシールを貼って収集しない。 収集しない。混入している袋に違反シールを貼附。</p>
	<p>生ごみの収集場におけるカラス、猫対策</p>	<p>蓋付きバケツに投入しているため問題ない。 バケツやネットの無料配布を行っている。 ごみステーション設置への補助。防鳥ネットの支給。</p>
	<p>分別収集方式はどういう方式が最も適していると思われるか。(例:バケツ・紙袋・生分解性プラスチック、コンポスト方式、など)</p>	<p>バケツ収集では収集袋がごみとならない。なお、バケツの汚れは収集時におがくずで拭き取っている。拭き取りに使用したおがくずはそのまま堆肥化を行っている。 バケツ収集がよいと思う。バイオプラ袋は高価すぎる。 バケツがいいと考える。</p>
	<p>効果的な水切りグッズ</p>	<p>水切り個人用バケツを販売。ほとんどは三角コーナーで対応している。 特になし。各家庭のノウハウにお任せしている。 特になし。三角コーナーで水切り後、ぎゅっと絞る。</p>



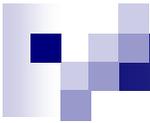
	疑問点	対応例(先行自治体へのヒアリング結果)
処理方法関連	堆肥化施設における水分や酸性ガスによる機械類の故障があるか	特にない。 粉じんに付着している硫化水素で腐食(メタン化施設)
	草木(チップ)と生ごみを混ぜて資源化しているか？ している場合の堆肥化手法が知りたい(なにか混合しているか)	草木(剪定枝)と生ごみを混ぜて堆肥化を行っている。家庭の剪定枝、割り箸も堆肥化(破碎後) 生ごみをバーク堆肥や鶏糞と混ぜて堆肥化使用していない。
	発酵や堆肥化に使用している菌について	乳酸菌を使用している。 使用していない。



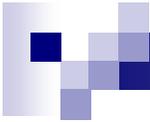
	疑問点	対応例(先行自治体へのヒアリング結果)
その他	生ごみ分別の周知・指導方法について何か特質的なものはあるか	<p>開始前は全庁をあげて各自治体に説明会を行っている。生ごみ分別については、各自治会で管理しており、特に問題はない。</p> <p>開始前に各地区を回って説明会を実施。分別していない収集袋を回収しないことを繰り返しているうちに分別がよくなってきた。</p> <p>開始前に160自治会中120自治会で105回説明会開催。飲食業協会対象に19回説明会開催。</p> <p>ごみ辞典の作成・配布</p>
	製品堆肥の品質はどうか(製品利用者の反応)	<p>製造された堆肥は市の所有物となる。堆肥は花いっぱい運動で無料配布。</p> <p>その他ホームセンターで販売している。肥料登録済み。</p> <p>需要は順調である。</p> <p>生ごみを使用しているのでイメージがよい。肥料登録済み。</p>

その他の疑問点(先行自治体へのヒアリング以降に届いた質問や要望等)

	疑問点
収集運搬	<p>収集運搬方法(塵芥車、トラック) 生ごみ、可燃ごみの収集回数 分別排出の対象市民は(全市民or自治会等のみ)</p>
処理方法関連	<p>生ごみの資源化について、飼料化・肥料化・堆肥化等各種様々あるが、現段階ではどれが最も有効か。 どのような処理方法(YM菌・麹菌・メタン回収など)が生ごみに適しているか。 中間処理方法(堆肥化、飼料化)と民間業者との連携状況 生ごみのリサイクル技術ごとのメリット・デメリット比較 「生ごみ消化機(NPO法人環境生物工学研究所)」や「アシドロコンポスト生ごみ処理機(東北大学大学院工学研究科)」等の生ごみ対策への有効性と地域設置による効果の検証などを行っていただくことができないか</p>
周知指導	<p>ダンボールコンポストの住民への浸透方法 生ごみ分別による住民側のメリット(メリットがなければ分別が悪くなるのでは) 生ごみの分別を実施しているが、一部地域では一般家庭においてこれが徹底されておらず、可燃ごみ袋の中に可燃ごみと一緒に出されている。分別を徹底する効果的な方法があればぜひご教示頂きたい。</p>



	疑問点
システム全般	<p>当市では、生ごみは焼却処分をしていますが、将来、生ごみの堆肥化・バイオガス化等をするための詳細情報を得たい。</p> <p>他自治体の成功事例や課題、問題点について情報提供してほしい</p> <p>小さな町において効果的な生ごみ対策</p> <p>生ごみリサイクルの具体的な方法とその効果について知りたい。</p> <p>事業系生ごみ対策と行政回収とのつながり、事業者の参加状況及び処理料金の負担等について</p> <p>生ごみを集団回収(分別収集)している自治体数及び実態</p> <p>分別収集以外の生ごみ減量施策を実施している自治体及び実態</p> <p>食品リサイクルループを検討している自治体及び進捗状況</p> <p>ダンボールコンポスト等による家庭系生ごみの自家処理のしくみづくり</p>
経済性 環境負荷	<p>導入後のごみ処理経費の増減について</p> <p>収集運搬及び処分経費や、排出者の個人的負担がそれぞれどの程度かかっているか？</p> <p>生ごみリサイクルのLCA</p> <p>家庭系生ごみに係るコスト、環境負荷低減効果の事例研究、生ごみ減量に関する普及啓発方策、生ごみ対策についての先進事例など、今後、バイオマスタウン構想の策定や生ごみの減量化を図るうえでの参考にさせていただきたい。</p> <p>事業系生ごみの環境に極力負荷を与えない処理方法を知ることができないか</p>



疑問点

その他

自治体が生ごみ資源化施設を建設する際、循環型交付金対象事業はあるか。

→有機性廃棄物リサイクル推進施設として、汚泥再生処理センター、ごみ飼料化施設、ごみ堆肥化施設が該当します。

施設建設に際し廃掃法上の規制・許可等(例:施設設置許可5t/日以上のもの)があるか。

→市町村が建設する場合、5t/日以上堆肥化施設等には施設設置届けが必要です。

民間の場合は、設置許可及び業の許可が必要になります。

散村型であるため生ごみ処理施設の設置について地元より難色を示されることが懸念される。

排出量の推計値・実績値は？

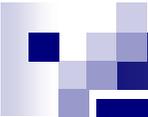
事業系生ごみ処理の実態の把握状況は？

行政回収以外に生ごみ処理を支援する制度等があるか？

事業系ごみを減らすための方法

生ごみ減量に関する施策

資源ごみ(雑がみ)回収の事例



今後の調査について

食品リサイクル施設の紹介資料の作成

九州地域における食品リサイクル施設の一覧表を作成し、冊子としてとりまとめる。

生ごみ排出事業者及び関連業界団体等に対して、本冊子を紹介する。